



過去最多5883人エントリー

薫風感じ洞爺湖畔を快走

快晴の中、スタートを切るランナーたち

ランナーは、午前8時50分の親子2^キを皮切りに、薫風の洞爺湖を感じながらフルマラソン、10^キ、5^キのそれぞれコースを駆け抜けていきました。ゲストとして2^キコースには、堀井学北海道議会議員とスキージャンプの金メダリスト

「洞爺湖マラソン2010」(室蘭陸上競技協会、北海道新聞など主催)が5月23日、昨年の最多参加者を523人上回る5、883人が参加して湖畔遊歩道広場を会場に開かれました。今年も道外から、遠くは九州、沖縄など753人が出場。最高齢参加者は、男子が昨年引き続き10^キに出場した後藤武夫さん(90歳)さんで、女子は5^キ出場の松本あい子さん(77歳)名寄ろう会です。

当日は、早朝雲ってマラソン日和と思われましたが、レース開始時には、晴天となり、ランナーにとっては過酷なレースとなりました。船木和喜さんが参加して、子どもたちと一緒にランニングを楽しみました。2^キ親子では、函館から参加した西川貴博さんと吹雪くんの親子が3連覇を達成しました。マラソンの男子総合優勝は、東京都の大学院生斉藤太一さん(だせわクラブ)で、大会記録を2分3秒上回る2時間22分41秒で、2連覇を達成しました。「半ばぐらいでタイムが出ていることがわかったので、それから記録を意識した」と新記録を喜んでいました。

同女子は、昨年9連覇を阻止された太田尚子さんがそのリベンジを果たし優勝しました。沿道では、虻田、洞爺高校生や多くの地域住民らが給水や誘導などのボランティアを行い、絶景の洞爺湖を疾走するランナー一人ひとりに、激励の声援と拍手を送り続けました。会場内には、温泉誕生100年記念として、温泉飲食店組合が、神内ファームのあか毛和牛を使用したハンバーガーやビーフカレーを販売。商工会の青年部と婦人部も露天を開き、地場産品をPRしました。

縄文の暮らし実感 第2回縄文まつり

5月16日第2回とうや湖縄文まつり(同実行委員会主催)が、入江貝塚公園で開かれました。

昨年7月開催された縄文シテイサミットに合わせて開かれ、今年も町内や周辺市町から約200人が参加し、縄文人の暮らしを体験しました。

当日は、アフリカ太鼓「トヤトヤ」の皆さんの楽しい演奏でオープンニング。

体験コーナーでは、火おこしやカツラの枝を削ってのはし作りなどを体験しました。



火おこしに挑戦する子どもたち



縄文講演会

昼食時には、シヤケやホタテなどが入った味噌仕立ての縄文鍋が振舞われ、おいしい笑顔があちらこちらで見られました。午後からは、柳で作った弓で矢の飛距離を争う縄文選手権大会や縄文クイズが行われ、参加した子どもらは、縄文のくらしに一日ひたりました。

前日15日には、アプタフレナイ会の主催で、大島直行さん(伊達噴火湾文化研究所長)の縄文講演会「縄文時代に女神がいたか」を開催し、土偶が女神なのかどうかを、いろんな文献を紹介しながらひも解きました。